

# 電波利用環境委員会報告（案）

～ CISPRの審議状況及びストレーザ会議対処方針について ～

平成27年8月24日 電波利用環境委員会

## 1 CISPRの審議状況

CISPR（国際無線障害特別委員会）の小委員会においては、平素からアドホック会合やメール審議等を通じて、非常に幅広い分野にわたり、妨害波に係る許容値及び測定法について審議が行われているところであるが、昨年のCISPRフランクフルト会議後から本年のCISPRストレーザ会議前までの約1年の間に行われた主な審議の状況については、別紙1のとおりである。

なお、我が国は、CISPRのB小委員会及びI小委員会の幹事国を務めており、これら2つの小委員会に幹事及び幹事補を送り出しているほか、各小委員会の作業班に専門家を送り、また、当該専門家が作業班に設けられた各種プロジェクトのリーダーを務めるなど（別紙2参照）、CISPRにおける妨害波の許容値及び測定法の標準化活動の全般に渡り、積極的に貢献している。

## 2 CISPRフランクフルト総会対処方針

CISPR会議（総会等）は毎年1回開催されるが、本年は平成27年9月21日から10月1日までの11日間、イタリアのストレーザにおいて開催される。その対処方針の概要は別紙3のとおりである。

## C I S P Rにおける最近の審議状況

### 7 I小委員会（情報技術装置・マルチメディア機器及び受信機の妨害波に関する規定を策定）

#### (1) 音声及びテレビジョン放送受信機並びに関連機器の妨害波規格（CISPR 13）の修正

第5版のメンテナンス事項（許容値適合の確認における測定器の不確かさの扱い、放射妨害波測定における測定距離の変更、デジタルラジオ受信機の妨害波測定の要求事項等）の検討結果を反映した第5版の修正1が本年1月に発行された。

#### (2) 情報技術装置のイミュニティ規格（CISPR 24）の改定

第2版のメンテナンス事項（伝導及び放射イミュニティ試験における試験周波数の4%ステップ試験法、通信装置のリターンパス試験法、xDSL機器の試験配置条件等）の検討結果を反映した第2.1版が本年4月に発行された。

#### (3) マルチメディア機器の妨害波規格（CISPR 32）の改定

CISPR 32第1版のCDV投票から分離されて別途検討してきた5件のCDV案件（FARを用いた測定法と許容値、様々な機器の試験配置条件、測定の不確かさ等）のうち、測定の不確かさを除く4件のCDVを統合したFDISが投票に付された。投票の結果、賛成多数で承認されて第2版が本年3月に発行された。

#### (4) マルチメディア機器のイミュニティ規格（CISPR 35）の策定

本規格はCISPR 20とCISPR 24の統合を基本としているが、我が国からの提言に基づき、これまでの機器単位のイミュニティ判定基準を機能単位に変更することも含めて規格案の策定が進められてきた。CDVが投票により承認されたにもかかわらずFDISが否決されたため、その後のNP投票の承認を受けて各国から提出された意見の審議と新たなCDV案の準備を行った。

ストレーザ会議では、本CDVに対する投票結果の確認と今後の進め方が議論される予定である。

#### (5) ワイヤレス電力伝送システムの検討

フランクフルト会議と本年5月のWG 2中間会合においてTFが開催され、CISPR32の適用範囲に従い、マルチメディア機器用WPTについても電力伝送に使用する周波

数及びその高調波を除外する方針等が確認された。

CISPR 32で規定されていない許容値（150 kHz未満の伝導妨害波、30 MHz未満の放射妨害波）については、他の規格で規定されている許容値の適用を考慮することとなっている。測定法については、WPT機能の動作条件や妨害波の最大条件等を検討している。

参考：CISPRの審議段階における文書略称

- NP : 新業務項目提案 (New Work Item Proposal)
- WD : 作業原案 (Working Draft)
- DC : コメント用審議文書 (Document for Comments)
- CD : 委員会原案 (Committee Draft)
- CDV : 投票用委員会原案 (Committee Draft for Vote)
- FDIS : 最終国際規格案 (Final Draft International Standard)
- IS : 国際規格 (International Standard)
- ISH : 解釈票 (Interpretation Sheet)
- DTR : 技術報告書案 (Draft Technical Report)
- TR : 技術報告書 (Technical Report)
- PAS : 公開仕様書 (Publicly Available Specification)

# CISPRフランクフルト会議対処方針

2015年のCISPR会議は、9月21日から10月1日までの11日間にわたり、イタリアのストレーザで開催される。日本からは、総務省、国立研究開発法人情報通信研究機構、日本電信電話株式会社、各大学、各試験機関、各工業会等から〇名が参加予定である。

総会及び各小委員会等の会議において審議等が行われるが、それらの会議における我が国の対応を以下に記す。

## 1 基本的な対処方針

本会議の審議に際しては、無線通信に対する各製品の妨害波の影響を総合的に勘案し、また我が国の利益と国際協調を考慮して、大局的に対処することとする。

主な事項については、基本的に次項2及び3に示す対処方針に従うこととするが、審議の状況に応じて、代表団長（多氣昌生（首都大学東京大学院））の指示に従い適宜対処する。

## 2 総会の個別対処方針

本会議では、複数の小委員会に関連する以下の事項について審議が行われる予定である。これらは多くのCISPR規格に与える影響が大きく、以下の対処方針に従うこととする。

## 3 各小委員会の個別対処方針

最近の審議状況、審議結果を受けた各分野のCISPR規格の改定について、検討が予定される。主な対処方針は以下のとおり。

### (5) I小委員会

#### ア 音声及びテレビジョン放送受信機並びに関連機器のイミュニティ規格（CISPR 20）及び情報技術装置のイミュニティ規格（CISPR 24）の廃止

CISPR 20 とCISPR 24を統合するCISPR 35初版発行に向けたCDVが承認された場合は、両規格のメンテナンスの中止と将来の廃止時期について議論される可能性がある。

我が国としてはメンテナンスの中止と移行期間を考慮した上での両規格の廃止に賛成する。

## イ マルチメディア機器のエミッション規格（CISPR 32）の改定

第2版が本年3月に発行されたため、今後の検討は、第2版の発行前から検討してきたカラーバーの定義の明確化等の課題及び第2版の改定に向けて顕在化した測定の不確かさ等の課題を整理・統合して短期作業と長期作業に区分した将来課題を検討する段階に移った。

将来課題に関するDC文書の照会結果と今後の進め方を確認するとともに、短期作業案件のうち、既に個別のDCにより各国の意向を確認している課題や、ラウンドロビンテストの実施等により検討の方向性や代替案選択の判断材料が得られつつある課題については、速やかにCDを準備するよう提言する。

## ウ マルチメディア機器のイミュニティ規格（CISPR 35）の策定

初版の発行に向けたFDISが投票により否決されたため、NP投票の承認を受けてCDVが再び投票に付されており、投票結果の確認と今後の進め方が議論される予定である。

CDVが可決された場合は、CDV投票に対して各国から提出されたコメントを速やかに確認してFDISの準備を開始するよう提言する。CDVが否決された場合は、速やかに修正CDVの準備を進めることを提言する。

## エ ワイヤレス電力伝送システムの検討

WPTから発せられる妨害波の測定条件についての実験結果を報告し、今後のTFでの検討を促す。また、これまでの検討結果を取りまとめたDC骨子案を準備し、規格の骨子案について各国に対して意見照会することを提言する。